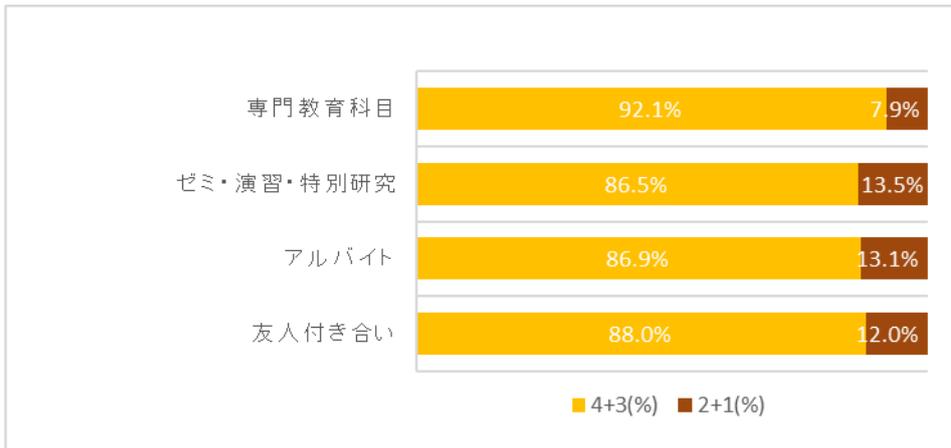


7. 主な集計結果

グラフを作成するにあたって、回答不明（複数回答など）、無回答は有効回答から除外しています。

(1) 在学中に注力したこと

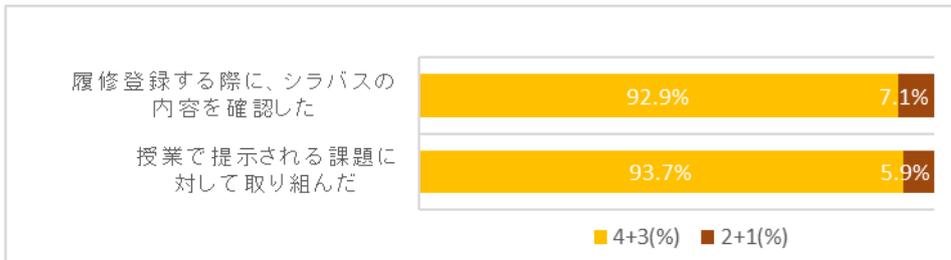
「あなたは在学中にどの程度力を入れましたか。当てはまるものに1つずつ○をつけてください。」



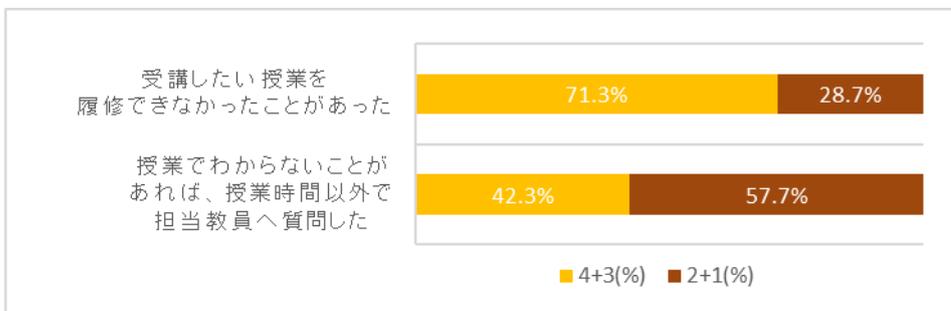
選択肢「4. とても力を入れた 3. やや力を入れた 2. あまり力を入れなかった 1. まったく力を入れなかった（一部0. 取組まなかった）」のうち4+3と2+1の合計
「ゼミ・演習・特別研究」、「アルバイト」、「友人付き合い」は、選択肢「取組まなかった」を除外して算出

(2) 在学中の学修活動

「あなたの在学中の学修活動で当てはまるものに1つずつ○をつけてください。」



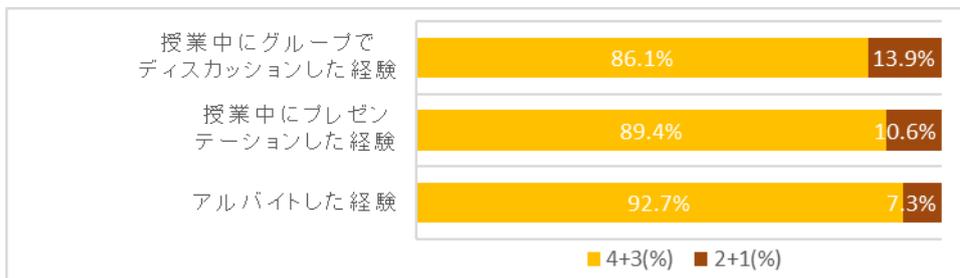
(課題)



選択肢「4. とても当てはまる 3. まあ当てはまる 2. あまり当てはまらない 1. まったく当てはまらない」のうち4+3と2+1の合計

(3) 活動による成長実感

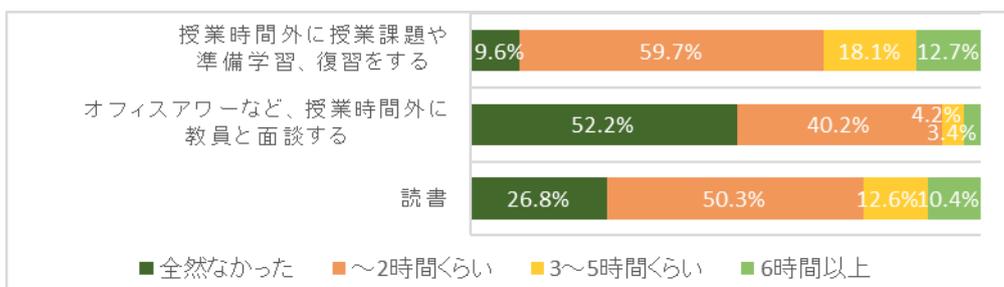
「あなたの在学中における次の経験は、自身の成長にどの程度つながりましたか。当てはまるものに1つずつ○をつけてください。」



選択肢「4. とても成長につながった 3. まあ成長につながった 2. あまり成長につながらなかった 1. まったく成長につながらなかった 0. 経験しなかった」のうち4+3と2+1の合計
 選択肢「経験しなかった」を除外して算出

(4) 週当たりの活動時間

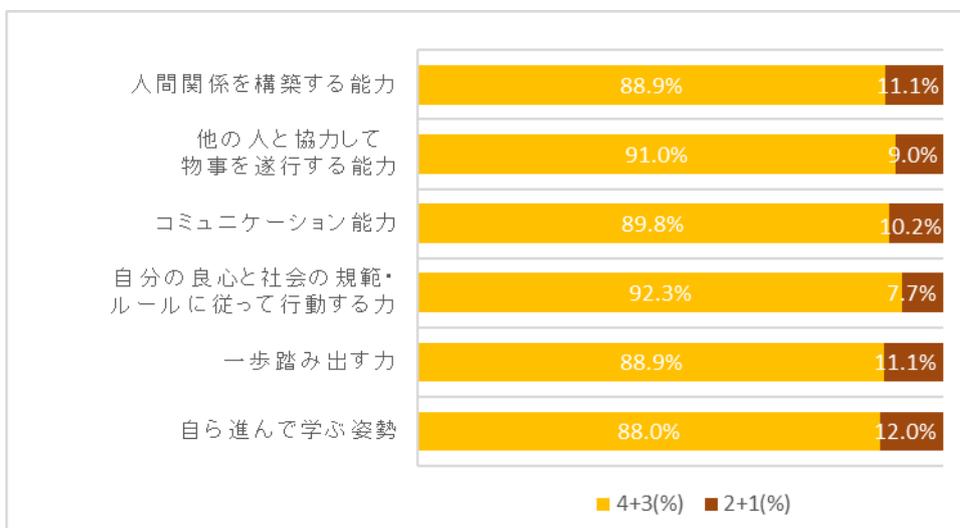
「3年次生のときに、1週間(7日間)当たり平均して使用した時間を教えてください。」



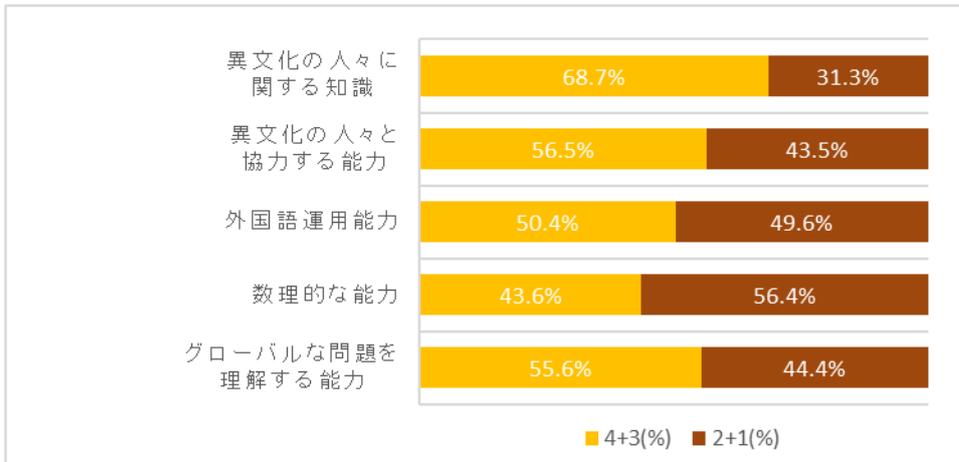
選択肢「1. 全然なかった 2. 1時間未満 3. 1～2時間くらい 4. 3～5時間くらい 5. 6～10時間くらい 6. 11～15時間くらい 7. 16～20時間くらい 8. 21時間以上」のうち全然なかった、～2時間くらい、3～5時間くらい、6時間以上の合計

(5) 入学後の知識・能力の変化

「次の項目について、あなたは大学入学後にどの程度身に付きましたか。当てはまるものに1つずつ○をつけてください。」



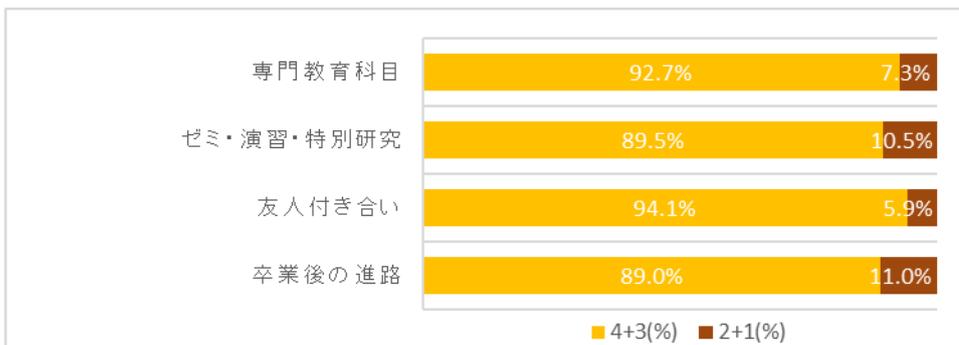
(課題)



選択肢「4. とても身に付いた 3. やや身に付いた 2. あまり身に付かなかった 1. まったく身に付かなかった」のうち4+3と2+1の合計

(6) 満足度

「あなたの満足度で当てはまるものに1つずつ○をつけてください。」

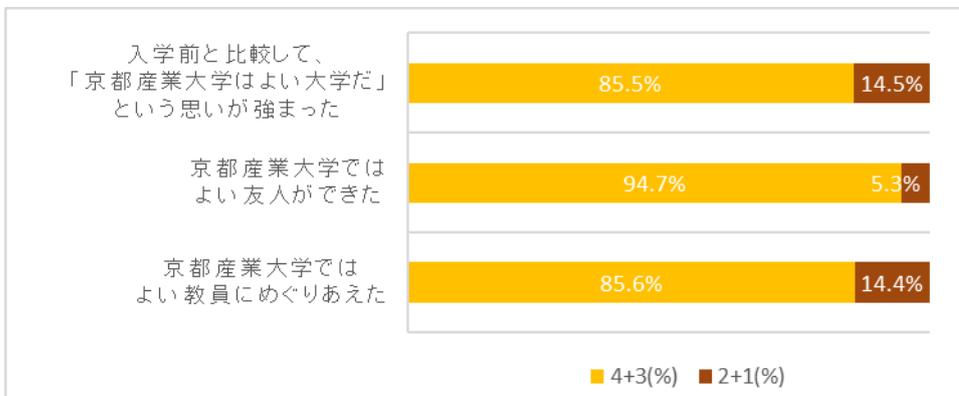


選択肢「4. とても満足している 3. やや満足している 2. あまり満足していない 1. まったく満足していない (一部0. 取組んでいない)」のうち4+3と2+1の合計

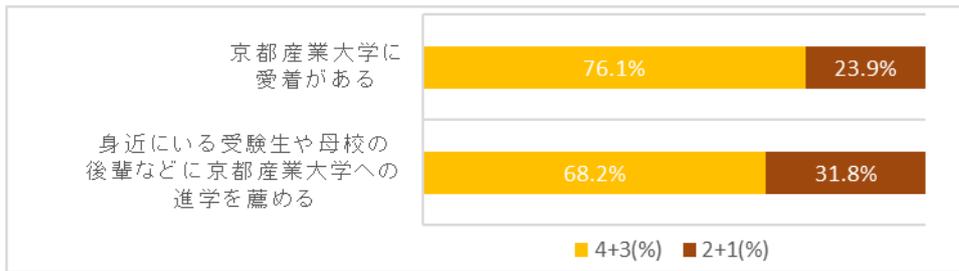
「ゼミ・演習・特別研究」、「友人付き合い」は、選択肢「取組んでいない」を除外して算出

(7) 大学全般

「あなたの考えに当てはまるものに1つずつ○をつけてください。」



(課題)



選択肢「4. とても当てはまる 3. まあ当てはまる 2. あまり当てはまらない 1. まったく当てはまらない」のうち4+3と2+1の合計

8. 総括

本調査を初めて実施しましたので、過年度との比較等ができませんが、回答結果から本学の特長や課題の一端が明らかになりました。本学の中長期計画である「神山STYLE2030」のもとで実行している改革の成果として、また今後対応すべき課題として向き合い、着実に歩みを進めていきます。なお、設問や選択肢の内容については、今後必要に応じて見直すものとします。

まず、大学教育の根幹となる「(所属している学部の) 専門教育科目」に力を入れ、成長を実感し、満足している学生が多いことが明らかになりました。また、「ゼミ・演習・特別研究」でも同様の結果となりました。

最も高い結果となったのは、「友人付き合い」です。「京都産業大学ではよい友人にめぐりあえた」に94.7%の学生が肯定的に回答しており、上賀茂・神山のキャンパスが学生同士を「むすぶ」場となっていることが確認できました。

学修活動の面では、「履修登録時にシラバスの内容を確認する」、「授業で提示される課題に対して取り組んだ」に当てはまると回答した割合が高かった一方で、「授業でわからないことがあれば、授業時間以外で担当教員に質問した」の割合に課題が残る結果となりました。また、「受講したい授業を履修できなかったことがあった」ことについては、引き続き動向を確認していく必要があります。

成長を実感した活動としては、「授業中のグループディスカッション」、「授業中のプレゼンテーション」や「アルバイト経験」が成長につながったと回答する学生の割合が高く、授業での取り組みに加えて社会での活動でもしっかり成長実感を得ている結果となりました。

週当たりの活動時間では、1年以上前となる3年次生の時点に遡って回答する設問としました。「授業時間外に、授業課題や準備学習、復習をする」、「オフィスアワーなど、授業時間外に教員と面談する」、「読書(マンガ・雑誌を除く)」において、十分な学習時間とまではいかない部分も垣間見えましたが、7割を超える学生が一定の時間以上、読書していることが分かりました。

知識・能力の変化では、「人間関係構築力」「他者との協働力」「コミュニケーション能力」が身に付いている学生の割合が高く、本学が掲げる「むすぶ人」として必要な要素が培われていると考えられます。また、「自分の良心と社会の規範・ルールに従って行動する力」、「一步踏み出す力」や「自ら進んで学ぶ姿勢」についても同様の結果となっており、広く社会で必要とされている要素に向上がみられることは、卒業後の社会でのさらなる成長・活躍に期待が膨らみます。一方で、グローバル化が進展する中で求められる「異文化の人々に対する知識や協力する力」、「外国語運用能力」の割合に課題が残る結果となりました。

これまで個々の内容について特長や課題となる部分を確認してきましたが、全体を捉えるものとして、『「京都産業大学はよい大学だ」という思いが強まった」とする学生の割合が高く、本学に入学して時間を過ごす過程で“よさ”を実感してくれていることが分かりました。

最後となりましたが、本調査の実施にあたって、卒業式当日等に回答に協力していただいた学生の皆さんに御礼申し上げます。卒業後のさらなる活躍を願っています。

以上